

学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	新潟市立小合中学校
校長氏名	太田 公仁

1 学校紹介

当校は、全校生徒80名、秋葉区西側にある中学校である。教育目標を「自主 協力 創造」と定めて教育活動を行うとともに、学区の小合小学校・小合東小学校と連携し、「自信をもち、協力して行動する子ども」と目指す子ども像を掲げて教育活動を行っている。花卉園芸農業が盛んな地であり、校庭は花いっぱい学校である。



2 実践テーマ

<テーマ>

小規模中学校区における「持続可能な専科指導（小学校教科担任制）の可能性」の探求

テーマ設定の理由

小規模の小学校における専科指導が持続可能なものになるよう、中学校区で指導方法や評価方法を含む学びの連続性を高めるための研修（実践）を進めていく。このことによって、小学校の専科指導の実施と小・中一貫した指導体制の構築、及び児童生徒理解の深まりを図る。

3 実践内容

取組1 小学校の外国語指導において、中学校英語教諭と合同で教科研究を進め、指導計画等を共同で作成、実践する。

取組2 小学校の外国語授業において、中学校英語教諭を兼務派遣し、学級担任が担当していた6年生の外国語授業を中学校教員が主担当し、評価・評定まで責任をもつこととし、実際に授業を行う。このことによって、学級担任の担當時数を軽減するとともに、小・中一貫した英語指導を行う。合わせて、中学校の児童理解を深める。

4 成果と課題

(1) 成果について

- 小学校6年生外国語の専科指導を行うことができる。6年生学級担任の持ち時数が軽減される。
- 小学校外国語と中学校英語の接続が円滑になる。また、指導の一体化が図られ、中1ギャップ解消につながる。
- 中学校教員の小学校児童の理解が深まる。

(2) 課題について

- 兼務派遣教員と両小学校との日程等連絡調整を密に行わなければならない。
- 兼務派遣教員の小・中児童生徒の授業担当は当該教員には負担感がある。
- 小学校外国語と中学校英語の授業内容、及び接続のあり方について、9カ年の指導を見据えてさらに研修を深める必要がある。

